

Kure 恋こい No. 19

Nursing

第59回 卒業生



独立行政法人国立病院機構 広島医療センター 附属 呉看護学校 第59回卒業記念 令和6年3月1日

第59回 卒業生のみなさんへ



国立病院機構
呉医療センター附属
呉看護学校 学校長
下瀬 省二

新型コロナウイルス感染症は、令和2（2020）年の初めから流行しはじめ、皆さんが入学した令和3年には、授業、実習、学校行事に多くの制限がありました。それから2年が経過し、令和5年5月8日に新型コロナウイルスは2類相当から5類へ引き下げられ、学校生活も少しずつではありますが、コロナ前の日常を取り戻しつつあります。困難に際し柔軟に対応した経験は、これからの人生でも役立つことができるとと思います。

これから看護師としてスタートするにあたり、心がけておくべきことがあります。看護師の仕事は、傷病者や褥瘡の療養上の世話をすることや、診療の補助を行うこととされています。「人を看る」という独自の視点で、人を身体や精神、社会、文化などさまざまな側面から捉え、情報を総合的に評価し、必要な看護を的確に判断しなければなりません。

看護師には、「強い体力と精神力」、「学び続ける姿勢と向上心」、「コミュニケーション能力」が求められます。相手の話を「正しく理解する力」と相手に「正しく伝える力」や、患者のちょっとした変化に気づくことができる「観察力」と患者の気持ちをイメージする「想像力」が必要です。そして、常に「自ら考えて行動していく姿勢」をもってください。

患者の一番近くにいて、かかわる時間が長い看護師であるからこそ気づくことがたくさんあります。一人一人の患者が違った状況で、さまざまな悩みを抱え苦しんでいます。医療の技術そのものも大切ですが、「思いやりと優しさ」をもって「明るく」看護することが、患者には何よりも救いになります。日々の業務は忙しくてなかなか余裕をもつことはできませんが、患者と共有する時間を大切にしてください。

Learn from yesterday, live for today, hope for tomorrow. The important thing is not to stop questioning. 「過去から学び、今日を生き、明日へ希望を繋げよう。もっとも大切なことは、考えることを止めないことだ。」とアインシュタインは述べています。今をしっかり行動することが未来への自信に繋がります。一日一日を前向きに自分らしく生きてください。

よい看護を実践するには、「自分自身が健康である」ことが大切です。仕事では、日々、緊張感やストレスにさらされるので、リフレッシュすることも必要です。日ごろから、仕事のオンとオフを上手に切り替えてストレスを発散して下さい。みなさんが心身ともに健康で、立派な看護師として活躍されることを願っています。

1年生

期待と不安が入り混じりながら入学した当初、私達1年生は慣れない事も多く、寮や学校生活で戸惑うことが多くありました。しかし先輩方は実習や勉強が忙しい中でも、私達を丁寧に導いて下さいました。強く優しい先輩方に支えていただけたおかげで、学校生活を安心して送れることができました。また、初めてのスポーツ交流会や学校祭では、団結した力強い応援団の演舞やコンサートを間近で拝見し、3年生の先輩方の偉大さを改めて実感しました。1年次の実習では、病院だけではなく地域の方の暮らしや生活を学びました。病気と共に生きる人々の生活や考えに触れ、命を預かる責任の重さを痛感しました。大変な実習を乗り越えられた先輩方は私達1年生の目標とする存在です。諦めずに夢に向かって突き進まれた先輩方のように私達も看護師という夢を追い、挫けることなく努力していきます。ご卒業おめでとうございます。先輩方がそれぞれ進まれる場所でご活躍されることを心よりお祈りいたします。

61回生代表 加川 恩穂

2年生

3年生の皆様、ご卒業おめでとうございます。今年度は新型コロナウイルスが第5類となり校内でのスポーツ交流大会や学校祭を開催したり、先輩方の看護研究の発表を聴講し様々な看護の方法を学んだり、先輩方との交流の機会が多くあったと感じています。

寮生活では、先輩方に悩み事を相談すると親身になって話を聴いてくださり、時にアドバイスをしてくださりました。私たちが安心して寮生活を送れたのは先輩方が優しく接して下さったおかげです。

第2学年は本格的な臨地実習が始まり、地域・在宅看護論実習Ⅱでは、地域で暮らす方々が利用されている社会資源を学ぶことが出来ました。また成人・老年看護学実習では、個別性のある看護計画の立案や成人期・老年期に起こる身体の変化を考慮したアセスメントを行いました。これらの実習を通して、個別性のある看護計画を立案することの難しさを感じています。

大変なことを乗り越えられてきた先輩方は様々な視点を持ち臨機応変に対応され、私たちの目指す存在です。これまでの多くの経験を活かし、皆様が進まれる場でご活躍されることをお祈りいたします。

60回生代表 藤井 桜子

3年生

呉看護学校での3年間を振り返ると、壁にぶつかることもありましたが、多くの方々の支えによってとても充実した日々でした。特に、臨地実習では患者様から多くのことを学ばせて頂きました。患者様に最善の看護を提供できるよう思い悩んだ日々により、自身の看護観が明確になっていったと考えてます。上手にいかず苦しみを感じることもありましたが、患者様の「ありがとう」という言葉や笑顔に、何度も励まして頂き、明日も頑張ろうと気持ちを新たにすることができました。

私たちは辛い時こそ笑顔を保ち、どんな困難にも全力で一丸となり取り組む学年です。コロナ禍で中止が続いていた学校行事も、感染対策に考慮し、開催を学年全員で模索しながら成功に導くことができました。看護師国家試験に向けた学習が本格的に始まると、不安に押しつぶされそうになることもありました。しかし先生方のご支援や同じ志を持つ仲間と共に最後まで諦めずに挑むことができました。

これからそれぞれ別の道を歩んでいきますが、呉看護学校で学んだこと、そして心強い仲間がいることを誇りとして、理想とする看護師となれるよう努力していきます。

59回生代表 江口 瑞穂



入学式



実習・学びの会



実習・地域在宅実習



戴帽式



学校祭（露店）



オープンスクール



特別講演



第77回 国立病院総合医学会
（シンポジウム発表）



学校祭（受付）



スポーツ交流会in呉
（入船山公園）



スポーツ交流会in呉（体育館）



看護研究演習



第77回 国立病院総合医学会
（運営ボランティア）



卒業式（記念品贈呈）



激励会



卒業式（答辞）

卒業生より

4A病棟

松下 侑里子 57回生



私は当校を卒業し、呉医療センター4A病棟で助産師として勤務しています。4A病棟は産婦人科病棟で、新生児から成人まで幅広い年代の看護を経験できます。私は、主に新生児や切迫早産などで入院されている方、産後から退院するまでの方を中心とした看護に携わっています。出産は常に生死が隣り合わせであり、お産で取り上げる毎に緊張しますが、その反面生まれた時にはとても大きな喜びがあります。その人生の中の一大イベントである出産に携わることができる助産師という職業に、魅力と大きな責任を感じています。また、4A病棟では、先輩方が丁寧にご指導くださいます。私は、このとても優れた環境下で、より良い看護が提供できるよう、専門性の高い知識・技術、コミュニケーション能力を習得すべく日々励んでいます。そして、多くの方々にサポートを頂き、微力ながらも日々成長していると実感しています。

呉看護学校での貴重な体験や多くの方々との出会いは看護の基盤となります。皆さんも、これから様々な場面で自分の思い描く理想の看護師に向かって歩んでください。

5A病棟

吉田 玲生 58回生



私は整形外科病棟である5A病棟で勤務しています。こちらの病棟は急性期病棟で、周術期患者の看護や退院に向けた看護を学ぶことができます。

手術前から手術後、退院まで患者さんと関わることができ、日々変化する患者さんの状態をアセスメントし看護を実践しています。周術期看護では、既往歴や術前検査の結果にも目を向け術後のリスクを視野に入れながら看護を行う必要があります。また、退院を見据えて患者さんの思いを多職種の方と共有したり、アセスメントしADL拡大のため離床を促したり、患者さんと近くで関わりながら、日々の変化を捉え、実践を通して看護を行っています。日々関わる中で不安やわからないことがありますが、先輩方に相談したり、フォローしてくださることで患者さんに安全安楽な看護が実践できるよう指導してもらえます。

患者さんから「ありがとう」や「あなたが担当でよかった」と声をかけていただけた時には特にやりがいを感じています。これからも自分の大切にしている看護観をより明確にし、実践していけるように努力していきたいです。

皆さんもこれから看護師として働く中で不安なことや大変なこともあると思いますが、先輩方や同僚を頼り、励まし合いながら頑張ってください。応援しています。

編集後記

卒業生の皆様、新生活に向けて日々準備を整えていることと思いますが、いかがお過ごしでしょうか。季節の変わり目となり、春のような温かさを感じる日もありますが、体調を崩さないよう健康管理に気をつけください。

在校生の皆様、春季休業いかがお過ごしでしょうか。心身ともにリフレッシュし、新年度に向け学習の準備を整えておきましょう。

病院関係者様、ならびに保護者様、本年度中は温かくご支援を賜り、誠にありがとうございました。無事に卒業の日、そして本年度の終業を迎えられたことを心よりお祝い申し上げます。卒業生の新たな門出と在校生の更なる成長に向け、引き続きご支援を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

当校で長い間ご尽力いただきました下瀬学校長先生が3月でご退任となりました。また、桑本事務長、福嶋教育主事、東教員は他施設への異動となります。心より感謝申し上げますと共に、新天地での益々のご活躍を祈念いたします。

最後になりましたが、呉看護だより「鯉恋こい」の発刊にご協力くださいました関係者の皆様、ありがとうございました。

～ 今後の皆様のご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げます ～

編集長 花子 紀子
編集委員 小山 仁一

